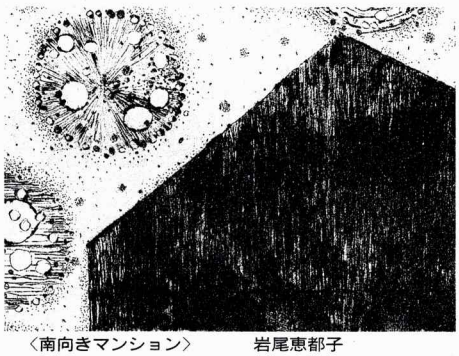
第3種郵便物認可

朝日新聞

朝日 俳壇 歌壇



〈南向きマンション〉　岩尾恵都子

短歌時評　再び、モダニズム

小島　なお

「短歌史の中で石川信雄は砂に埋もれていたコーナーストーンのような存在かもしれない」。『石川信雄全歌集』（書肆侃侃房）のあとがきはそう書き出される。編者は石川信雄の姪である鈴木ひとみ。

人影のまったく消えた街のなかでピエ・ド・ネエをするピエ・ド・ネエをする　『シネマ』

前川佐美雄『植物祭』、齋藤史『魚歌』、加藤克巳『螺旋階段』など、戦前のモダニズム短歌は、社会への抵抗や現実を超越するシュルレアリスムを志向した新しい時代の表現であった。なかでも石川信雄の『シネマ』が持つ自在な口語の呼吸と詩精神は刊行から約九十年経った今でも清新に感じられる。

本歌集では戦中戦後を詠んだ第二歌集『太白光』や歌集未収録歌、戦地からの手紙などに加えて、遺品から発見され、今回初めて世に出る歌集『紅貝抄』が収載されている。

カービン銃きみも持つべく不様なる日本国は捨ててしまえよ　『紅貝抄』

生きものの苦渋のまなこだらだらと雨はしたたる青きネオンに

『シネマ』のポエジーを引き継ぎながら、戦争経験を内包した命令形や、退廃的な湿度には鋭い痛みと抒情がある。

戦争の波に押し流され、石川信雄はじめモダニズムの作品群の評価は十分になされていない。ときに私よりも私たちが主語となる現代の対社会への連帯感覚と、戦前の文学運動には通じるものがある。「ピエ・ド・ネエ」はフランス語であかんべー。いま再びモダニズムに心が揺り動かされる。

（歌人）

風信

久永草太歌集「命の部首」　獣医学科在学中から動物病院に勤めて1年経つまでに詠んだ400首を収めた第1歌集。第34回歌壇賞受賞作の「彼岸へ」も収録。（本阿弥書店・2420円）

砂山信一歌集「珠洲の海」　石川県珠洲市で中学教師を務めた著者が2023年に出した私家版の再刊。自宅が全壊した能登半島地震後に詠んだ歌を末尾に収録。（いりの舎・1100円）

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104・8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます（週に2作品まで）。QRコードから。

永田和宏選

子どもらが小さな手もて入れくれし募金を汚す八億の寄付　（観音寺市）篠原　俊則

せめてせめて別れの言葉を聞きたいねわたしはどんな悪妻だったか　（敦賀市）大谷　静子

「私はなぜここにいるのか」極寒のロシアの地を這う北朝鮮兵士　（横浜市）森　秀人

珈琲の回数券を壁に刺す喫茶店あり京の裏道　（東京都）斑山　羊

苦虫を噛みつぶしたる顔をしてダチョウはなぜかいつも「おばちゃん」（茨木市）大原みやこ

円滑に進んでいるということは誰か犠牲になっているのだ　（横浜市）菅谷　彩香

君だけの俺でゐるよと良くもまあ言ひしあの時蠟梅の花　（香取市）嶋田　武夫

冬の川両の手を真っ赤にして楮剝ぐ母風船爆弾とは知らず　（豊田市）近藤　敬二

和蠟燭復活させて移住者の櫨の紅葉の里山暮らし　（小城市）福地　由親

賽銭に一円五円使うよりスマホ決済望む神様　（江別市）増田　辰良

【評】篠原さん、裏金のけじめとして自民党が中央共同募金会に寄付した八億。慎ましい小遣いを差し出した子供らの善意を汚すものだと。同感！　大谷さん、最期には私への言葉を聞きたい、どんな悪妻だったかばらしてもいいから、聞きたい。

馬場あき子選

☆注文の一膳だけを持って来て気が利かねえと言われるロボット　（熊本市）柳田　孝裕

新しき年の朝日さす裸木にわたりつくせし渡り鳥の巣　（三浦市）秦　孝浩

漂着の鯨の死骸食りて子熊の腹は冬眠につく　（津市）中山　道治

人生で一番良かったこと問われ「終戦」と言う百寿者あまた　（久留米市）塚本　恭子

もう海にもどれぬ辺野古の海に打つ七万一千本の砂杭　（観音寺市）篠原　俊則

「万が一」の一をずしんと飲み込んで父を入院させる冬の日　（和泉市）星田　美紀

水を責め水と呼吸を合わせつつ和紙に命を吹き込む職人　（石川県）瀧上　裕幸

代代の屋号で呼びし近隣も空き地となりふるさとの町　（仙台市）沼沢　修

シジミ蝶殖さんものと庭の辺に食草植えて春を待つ友　（伊那市）小林　勝幸

小春日のチャイムはどこかのんびりと子らと教師のドッチボール続く（兵庫県）高澤　栄子

【評】第一首は配膳ロボットとの出会い。下句のくだけた日常のことばが楽しい。第二首の下句はみごとな光景。幾つもの鳥の巣は育った鳥もろともに次の生息地へと渡り尽くした跡だ。第四首の百歳老人たちの歳月をかけた答えがすばらしい。

佐佐木幸綱選

想像と全く違う鼻と口昼食休みのヘルパーの笑顔　（新潟市）古川　範子

携帯のなかった頃はあんなにも電話番号覚えていたのに　（観音寺市）篠原　俊則

二切れの鮒ずし肴にふる里を語りて止まぬ父の晩酌　（東京都）上田　国博

☆大地震と大水ののち能登は迷路どこに行きても「通行禁止」　（かほく市）中村むつみ

母が買い揃えた鍋の大中小われが引き継ぎ黒豆を煮る　（相模原市）石井　裕乃

なめられてたまるかと友は戦いに行くかのようにパートへ向かう　（横浜市）友常　甘酢

コンビニに改装されて団子屋の記憶薄れし門前通り　（東京都）海老根　清

☆注文の一膳だけを持って来て気が利かねえと言われるロボット　（熊本市）柳田　孝裕

白鷺が朝日を纏ひ黄の鳥になつて散歩の我に見せをり　（厚木市）北村　純一

うす味の母のけんちん、かやくご飯最後と知らずに食みし日のあり　（横浜市）西尾　綾子

【評】第一首、ヘルパーさんのマスクをはずした笑顔をうたう。ドラマチックな表現がなかなか。第二首、昔はいくつも電話番号を暗記していたっけ。第三首、「ふる里を語りて止まぬ」に思いがこもる。鮒ずしは滋賀県の名産。

高野公彦選

☆大地震と大水ののち能登は迷路どこに行きても「通行禁止」　（かほく市）中村むつみ

屠蘇機嫌吹き飛ばされたあの日からもう一年かまだ一年か　（高岡市）池田　典恵

縫い目なき衣の如き新しき雪輕やかに裁ちゆく子らよ　（札幌市）星野　英毅

境内を吹き抜ける風にカタカタと揺れる絵馬見れば外国語多し　（京都市）中尾　秦子

世界には飢ゑたる人のあまたあるを説きつつ子らにお年玉与ふ　（朝霞市）岩部　博道

四年後にもう一期できるとトランプが大統領令出しませんように　（水戸市）中原千絵子

ふるさとは宇宙の中に在るからと言ひて谷川俊太郎逝く　（筑紫野市）二宮　正博

白鷺が水の韻を喜びて花のごとくに羽を広げる　（厚木市）北村　純一

ふる里の村々めぐり来たるバス鎧のごとく雪纏いおり　（大館市）小林　鐐悦

夜のバス杖とかぎ針持ち変えて倍速動画のように編む人　（京都市）有賀　香

【評】1首目・2首目、石川県の中村さんは能登を襲った災害の深刻さを嘆き、富山県の池田さんは心に受けた傷で呆然としていることを詠む。3首目、新雪の積もったゾーンを、すいすいと裁断するように歩行する子どもたちの元気さ。